

# 令和4年度 自己評価・施設関係者評価結果について

認定こども園青森ひかり

## 1. 園の教育・保育目標

認定こども園となり、7年目。園の理念「子ども一人一人が輝く理想の場所であるために、地域及び保護者の子育てを支援し、子どもの生きる力の基礎を育むこと」を掲げているが、新型コロナウイルス感染症流行4年目。保護者や外部の方の受入れ制限、行事中止や規模縮小など、これまで行ってきた保護者の子育て支援に関わる内容が引き続き、制限され、外部受入の行事は中止、子ども中心の行事に変更する等、行事の実施形態や在り方を模索し、対策を取りながら実施した。制限されることも多かったが、行事の在り方を見直す良いきっかけとなったり、実施方法に工夫する等につながるものもあり、良い見直しとなった。秋以降、対策を取りながら実施できた行事（お遊戯会・祖父母参観日・3-5歳児保育参観懇談会・2歳児クラス懇談会等）が増えてきている。

当園「子ども像」として、以下の3項目を目標に挙げている。

1. なかよく…集団生活の中で子ども自身が友達と認め合い助け合う『思いやり』の心を持つ子
2. たのしむ…活動や遊びの中で育む『意欲を持つ』子
3. げんきな子ども…健やかで丈夫な体作りにつながる『生きる力』を持つ子

## 2. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した施設評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することで、保育者自らが客観的に自園を見る目を養い、環境全般の改善、保育内容や保育方法の改善に主体的にとりくんでいくことを目標とする。また、施設関係者評価を受けて、課題を確認し、その改善に取り組む。

<評価>  
 5…十分達成されている 4…達成されている  
 3…どちらでもない  
 2…取り組まれているが、成果が十分ではない  
 1…取組が不十分 コメントなども可

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況と評価

評価項目	取組内容	取組状況	評価
教育課程・指導	教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解を図る。	各種研修を受け、主体的保育の在り方や環境を通じた指導・内容を深める保育が主流となっている。年齢に応じた環境設定や遊びについて、理解を深め模索し、各クラスでの実践報告等を通して、少しずつ保育環境の見直しに努めることができてきている。来年度は保育の質評価スケール ECERS・保育者の関わりに軸を置いた SSTEW を学びあい、環境やかかわり方を見直し、主体的な保育・遊び込める環境作りに努めたいと思う。	4
保健管理	学校保健計画を作成し、感染症や疾病への発生予防や対応を含め、保護者にも園児の状況を理解してもらいながら、園児の健康保持や増進に努める。	学校保健計画を作成し、園内研修等で感染症への知識を職員間で共有。肥満検査の実施では、栄養士計算のカウプ指数をもとに保護者と面談を持つ等確認を行った。感染症に関しては、家庭での協力やコロナ対策に努めたこともあり感染症数が少なかった。また園内での蔓延にはつながらなかったと思う。使い捨てエプロン・手袋・足カバーを準備し嘔吐物処理方法を変え、使い捨てエプロン・手袋使用の便の処理方法を強化したことで、市内で流行している感染性胃腸炎が流行している時期も罹患者がおらず、一定の感染予防につながっているように思う。	4
安全管理	学校安全計画を作成し、職員の共通理解と体制を確認しながら、安全管理の意識を強化する。災害発生時の安全確保や通報訓練・避難・引き渡しまでの方法や手段を共有し、訓練を行う。防災マニュアルや危機管理マニュアルの修正をする。	学校安全計画を作成、安全係の上部組織として安全委員を配置して3年目。緊急時の対応訓練や AED 心肺蘇生等、定期的な訓練を行い、万が一の保育技術の習得や安心感に結びついている。子どものアレルギーや痙攣・脱臼など、緊急対応が必要な部分を一覧にし、どの職員でも対応できるよう準備した。熱性けいれんのチェックリストを準備し、対応方法を確認できるようにした。ヒヤリハットは Google フォーム→ICT アプリへ移行、分析と改善策について、周知の機会を持っている。職員の共通理解と体制を確認しながら、安全管理の意識を強化する。	4

特別支援教育	特別支援教育の理解を深め、該当園児に個別配慮をしながら、発達支援の支援をする。家庭との連携や関係機関との連携を図る。職員の園外研修への参加を促し、特別支援教育の情報を得て、理解を深め、実践する。	特別支援や療育の対象となっている園児には、特別支援学校・療育の支援施設と連携を図っている。職員も、外部研修だけでなく、園内でも、必要に応じた発達支援の職員共有につなげることができた。今後は、それぞれの特性に応じたケースバイケースの対応法を学びたいと思っているので、園児保護者の協力も得ながら、外部の支援施設等と連携を図り、情報交換を深めていきたいと思う。	4
組織運営	施設の財務運営状況や公開職員の業務に応じて、変形労働時間制やシフト勤務を取り入れる。教職員の給与を見直し、処遇改善に取り組む。	ミドルリーダー（副主幹ポスト）を創設・権限移譲して3年目。職員一人一人の仕事に対する向き合い方が主体的になり、組織力の向上を感じている。従来のピラミッド型組織（上下関係重視）から、フォロワー型組織（各ポストがそれぞれの権限で横のつながりとして重視）の方法を行い、活気が出ている。年度内は、産休育休職員の中に半数がミドルリーダーが含まれていたため、途中体制の弱体化もあった。また、職員の働きやすい環境作りの一環として、定休を月2回→3回へ増やし、各種休暇（ボランティア休暇・誕生日休暇・リフレッシュ休暇）導入。中小企業パワハラ義務化の流れもあり、パワハラ防止研修や体制構築を図り、周知に努めた。	3
研修（資質向上の取り組み）	教育・保育の質の向上のために、園内研修の実施や園外研修にも積極的に参加する。勤務環境を整え、勤務時間内での研修時間の確保に努め、資質向上に努めたい。	コロナ禍でオンライン研修と参集の半々だったが、動画を職員で見ることが出来る園内研修が充実して実施できた。昨年に続き、ドキュメンテーション・不適切保育・パワハラ研修などの内容で研修することができた。教員更新講習に関しては不要となったため、職員は各種研修に集中することができて良かった。	4
小学校接続	小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。幼保小連携研修に参加する。	幼保小接続を見据えた5歳児のアプローチカリキュラムを策定し、秋から半年をかけて、無理なく小学校での生活につなげられるよう日々活動を実践している。近隣小学校との接続では、学習発表会総練習見学、小学校見学では、授業・教室等の参観し、2年生生活科の「昔遊び交流会参加」で2年生との交流を深め、園児の進学への期待感が持てたり、良い機会となった。必要に応じ、卒園児の丁寧な説明や接続が行えるよう・顔の見える関係作りに努めていきたい。	5
教育・保育目標施設評価	教育・保育目標の設定と自己評価の実施状況、施設関係者評価の実施状況、施設に対する保護者の意見・要望等の状況	定期的な自己評価を踏まえ、カタグルマアプリ使用し、園長との面談を行った。各自の状況や自分で立てた目標をもとに年3回の面談で、目標を意識しながら業務にあたる意識付け等を図る事ができた。保護者には、父母の会・卒園保護者向けアンケートを行い、意見要望の収集と反省に活かすことができた。運動会・お遊戯会のアンケートは今年度は行っていなかったため、次年度に実施したい。	3
情報提供	保護者に保育活動の状況を伝える手段として、アプリを利用したドキュメンテーションや動画配信、可視化等で工夫する。情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	コロナ禍で園への立ち入りができない保護者に向けて、アプリを利用したドキュメンテーション等写真やアプリを使用し、活動状況を伝える工夫ができた。また、ホームページを利用し、園の概要や行事、活動の内容等を公開している。次年度夏のHPリニューアルに向け、準備をおこなった。外部発信用の園情報の他に、職員採用ページなども加え、園での情報提供の充実を図るようにした。	4

認定こども園青森ひかり 令和4年度 施設関係者評価 結果

《施設関係者評価項目》 5:とてもよい 4:よい 3:ふつう 2:あまりよくない 1:改善が必要

評価期間 令和4年3月10日～3月30日  
 評価者 父母の会代表者4名・5歳児保護者15名  
 評価方法 アンケート用紙記入、対面で協議 評価は平均点とした

		評価項目	評価
1	概要	園の理念、教育保育目標の周知	4.7
2		入園説明会や入園の際の説明や手続きについての対応	4.6
3	環境整備	園舎や施設設備（保育室内・手洗い場・トイレ等）	4.5
4		園庭・菜園について	4.9
6		遊具・おもちゃ・絵本の整備について	4.8
7	保健安全管理	園舎や施設設備の安全管理について	4.8
8		避難訓練等による、安全教育の実施	4.8
9		日常の健康観察や感染症の情報提供・取組について	4.8
10		怪我や体調不良時の対処	4.7
11	職員	園長のリーダーシップ	4.8
13		職員のチームワーク	4.6
15		職員の印象(挨拶、電話対応など)	4.8
17		先生の保育技術(子どもへの対応や取組みのやり方など)	4.6
18		子ども同士のトラブルが起こった時の対処	4.4
19	活動面	行事について	4.5
20		園外保育やクッキング等の体験活動	4.7
21		知育的な取り組み	4.6
22		講師等の教室(英語、スイミング、絵画など)	4.8
23		菜園活動	4.6
24	給食等	給食の献立内容や量、味について	4.6
25		手作りおやつと内容について	4.6
26		離乳食の対応について	4.5
27		食物アレルギーの対応について	4.6
28	保護者支援	延長保育・一時預かりの実施	4.8
29		園と保護者のコミュニケーション(送迎時、お便り帳など)	4.1
30		年2回のクラス懇談会や二者面談	4.4
31		園だより・クラス便りでの園に関する様々な情報提供の実施	4.6
32		ICTアプリによる利用(一斉配信・写真販売・欠席お迎え申請)	4.6
33		給食試食の実施・献立レシピの配布	4.7
34		意見・相談への園の対応	4.6
35		地域の親子向けの園庭開放・子育て支援活動について	4.7
36	諸費用	諸費用(園で徴収する給食代、個人負担の教材費等)	4.4
37		1号認定の預かり保育の時間や費用	4.6
38		延長保育の時間や費用、おやつなどについて	4.4

保護者・地域住民との連携	施設運営への保護者、地域住民の参画及び協力の状況。地域住民から寄せられた具体的な意見や要望の把握	<p>コロナの兼ね合いで、園内に保護者立ち入りを制限。従来行ってきた園行事の中止や規模縮小に伴い、保護者・地域住民の参加等が制限された。保護者へはICTを活用した「保育ドキュメンテーション」で日々の活動を可視化。秋以降は、対策を取りながら行事を実施することができた。近隣住民からの車通行への相談に対しても対応済み。</p> <p>奥野地区で行われる地域高齢者の会「心の縁側・はまなす会」での交流は、市中感染状況を鑑み、交流中止となった。次年度は筒井地区・奥野地区の2回参加の予定である。</p> <p>また、筒井中学校区で7・8月予定の仮称・防災祭りに参加し、地域との協力関係を築いていきたい。</p>	4
子育て支援	園庭開放を行い、0～2歳児クラスと一緒に保育体験をしていく。	<p>市内のコロナ感染状況に合わせ8・11月は中止し、計11回の実施となった。受入組数を制限、同年齢の園児との接触のない形で行った。菜園での収穫体験や外での水遊びを実施。栄養士の離乳食講話は、保護者の関心度が高く、好評。</p> <p>12月は、短時間の交代制で、製作やプレゼント配布・記念写真撮影実施。プレゼント受取だけの人もいたが、近況を聞くことができ、コロナ禍でも、次年度につながられる良い機会になった。</p>	4
預かり保育	1号認定児の預かり保育時間・料金など充実を図る。認定変更の相談に乗り、子育て支援に努める。	1号認定児の預かり保育時間・料金など充実を図っている。2歳児クラスの満3歳児1号認定への移行の希望者が多く、夏以降、1号認定希望の相談に乗ったり、移行の対応を行い、支援につなげている。	5
教育・保育環境整備	緊急環境整備事業でおもちゃの購入や絵本の充実を図る。	緊急環境整備事業で、遊戯室の反響音改善工事をおこなった。すでに園内外に設置しているが、保育室内の四角となる部分に防犯カメラを増設。不審者対策の一環と見守り、また事故等検証・伝達のために使用している。主体的保育実施のため、保育環境に棚を設置したり子どもの導線を考え、おもちゃの配置を変えるなど、発達に合わせた環境設定を模索している。	4
食育	菜園活動から調理体験につなげ、栄養士による食育指導を通じ、子ども達に食への関心を深めるようにする。保護者が給食を試食する機会を持ち、子育ての支援につなげる。	<p>菜園活動(苗植え・水やり・収穫)から調理体験につなげていることで、野菜や食材への興味関心が広がり、子ども達の好き嫌いが減り、野菜を積極的に摂る姿が見られている。</p> <p>年3回、栄養士による食育指導を行い、食事のマナーや基本的な習慣、自然への知識も身につくようになった。</p>	4

4. 施設関係者評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
4.0	施設関係者評価項目の目標や計画は、コロナ禍でもあり、思う状況とは違う事も多かったが、状況に応じ対策や新たな工夫を講じながら対応してきたと思う。今後も、よりよい保育の実現に向けて保育者・職員が施設関係者評価の趣旨を理解し、振り返りと改善努力に繋げることができるよう自己点検・自己評価に取り組んでいきたい。

5. 今後、取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育環境作り 行事内容の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子ども主体の保育」・「遊びこめる環境作り」等、「子どもの学びを支える保育環境作り」に努めたい。保育の総合的な質の評価スケール＝ECERS、保育者の関わりに軸保育の質スケールSSTEWを学びあい、保育環境の改善につなげていきたい。</li> <li>子ども主体の保育を基盤にした行事内容の見直しと実施。子ども主体性を大事にし、子どもの成長・意欲を感じられるような行事に変換していきたい。</li> </ul>

## 認定こども園青森ひかり 令和4年度施設関係者評価 結果

評価期間	令和4年3月10日～3月30日
評価者	父母の会代表者4名・5歳児保護者15名
評価方法	アンケート用紙記入、対面で協議

### 評価内容

#### 1. 活動の取り組みの中で、気づいた点や意見

##### (1) 子どもの姿について

###### <子どもの姿>

- ・仲良しのお友達がたくさんできた。
- ・子どもが楽しそうに、こども園のことを話していた。
- ・「こども園に早く行きたい!楽しいもん!」と話す子どもの姿に入園してよかったと思う。
- ・おしゃべりやお絵描きだけでなく、友達との関わり方も上手になったと感じる。
- ・社会性が身についた。
- ・集団生活の中で大切な事を学び、友達との関わり方、挨拶や身の回りの事等、沢山一人で、できるようになった。子供達一人ひとりの長所や個性を引き出し、伸ばして貰えた。
- ・年少から入園した時はいつも泣いていたが、年中になってから急に泣くことなく、むしろ楽しそうに朝バイバイできたことが印象に残っている。
- ・朝、ほとんど泣く事なく、園に通っていたので、子供も楽しく先生が大好きだったからだと思う。
- ・友達とコミュニケーションを取りながら遊んだり、色々な体験をして、楽しそうに過ごしていた。
- ・登園時、泣く時もあったが、友達と楽しそうにする姿を見て安心して預けられた。

##### (2) 職員対応について

###### <複数担任制>

- ・3-5歳児各クラス15人前後のクラス編成に、先生が2人。園児ひとりひとりに寄り添ってくれ、安心して預けられた。
- ・少人数の保育なので、先生の目が届いていると感じる。

###### <職員対応等>

- ・子供達一人ひとりに寄り添った保育で、安心して預けることができた。のびのびと楽しく園生活を送る子供の様子を見る事ができた。
- ・先生方が、素晴らしい。子どもをよく見て、気持ちを理解し、寄り添ってくれた。子どものペースに合わせて、色々教えてくれた。(2人)
- ・どの先生に会っても、子どもの名前を覚えていて、明るく挨拶してくれて嬉しかった。(2人)
- ・先生達みんな明るく、子供も先生の話をよくしていたので、楽しく過ごしていることが伝わった。
- ・いつも子供達のことを考え、側で見守って貰えた。
- ・先生たちが良い人ばかり。気さくな先生達だったので、親も安心できてよかった。(2人)
- ・親身になって話を聞いてくれる先生がいた。
- ・途中入園で、皆の輪に入れるか心配だったが、先生方のフォローもあり、とても楽しくこども園生活が送れた。
- ・長い間、たくさんの愛情を注いでくれて、成長を見守っていただいた。

##### (3) 行事・活動について

###### <全般的に>

- ・園生活でたくさんの経験ができた。(2人)
- ・園庭菜園やお散歩、水遊びや雪遊び等、思ったよりも外での活動が多く、子供が体を使ってたくさん遊べていて良かった。(2人)
- ・行事や活動で、親以外の大人とのかかわり方を体験できた。
- ・コロナ禍が始まり、色々な行事が中止、短縮しなければならぬ中、先生方の懸命な努力で開催された行事等に、先生達の「一生懸命」が伝わった。頑張る姿に頭が下がる思いだ。(4人)
- ・コロナで規模縮小・子どもだけ活動が中心だったので、親同士の交流が少なくなり、残念。来年度は色々な行事も開催され、新1年生も集まる機会ができるようなので、親も子も楽しみにしている。(2人)
- ・どの行事も子供たちの生き生きした姿を見る事ができて、とても楽しかった。(2人)
- ・運動会やお遊戯会では、あどけないかわいい姿で頑張る様子を見て感動した。(2人)
- ・どの行事も楽しかった。(2人)
- ・コロナで行事はうまく出来ないこともあったが、毎月のように色々なイベントがあったように思う。
- <親子遠足>・コロナで親子遠足が中止となり、入園中1度しか行けなかったが、とても心に残っている。もっと行けると良かった。
- <運動会>・コロナの影響で、入園中1度しか、運動会を見る事ができなかった。最後の運動会は、立派にしている姿に成長を感じた。3歳の時と6歳の時でできることも増え、年長さんになったんだなとしみじみした。

<お楽しみ会>・コロナ禍でお泊り保育がお楽しみ会となり、宿泊が叶わなかったが、公園で遊んだり友達との夕食や夜の花火がキレイだったと嬉しそうに話し、とても楽しかったようだ。(2人)

<保育参観日>・参観日等の平日開催が大変、コロナで他のお母さん達と話す機会がなくて、交流がほとんどなく残念だった。

<小学校との連携>・小学校に入る前に集団行動を学べてよかった。

###### <お遊戯会>

- ・お遊戯会衣装が、とても可愛い・かっこいいものばかりだった。他園では、なかなか見れないかと思う位すごい。すべて、子供の事を考えてくれているので、親も楽しみでワクワクしていた。
- ・おゆうぎ会はいつも感動させられる。衣装も毎年、可愛い。
- ・日々の練習を頑張り、本番では子ども達だけで、堂々と演目を演じる姿に感動した。

###### <卒園式>

- ・特に卒園式が感動的。子どもの成長した姿を見ることができた。全員がかっこよく入場する姿が素晴らしい。(3人)
- ・入園してからの今までの映像を流してくれ、涙が出そうになった。子供達や先生が涙ぐんでいるのを見て、皆仲良く楽しく園生活を送っていたことを実感できた。

###### <絵画指導・英語教室・スイミング>

- ・英語・スイミング・絵画など、家ではできないことを学べた。
- ・スイミングの経験ができた。怖いから始まり、今では「楽しい特技」になった。
- ・講師等の教室がありと多いので良い!!
- ・スイミングは、保護者の送り迎えではなく通えてとても助かった。
- ・年長になってからの勉強時期をもう少し早めから実施してほしかった。習字教室とかも良さそう。

##### (4) 食育・給食について

###### <アレルギー対応・給食・おやつ>

- ・季節に応じた行事食事が素晴らしい
- ・栄養たっぷりの給食と食育指導
- ・クッキングや 菜園など色々な体験をすることができた。
- ・給食がいつも美味しそう!可愛いデザインの時があり、子ども達も喜んでいる。

###### <菜園活動>

- ・菜園での作業や収穫の喜び、クッキングを通して、食の大切さを意識するようになった。

##### (5) 保護者支援・子育ての支援

###### <連絡帳>

- ・1歳から通っていて、毎日の連絡帳にその日あった出来事や相談など気軽にできて、先生達とコミュニケーションが取れて良かった。

###### <ICTアプリの使用>

- ・コロナ中も子供達だけの行事に変更になったが、活動の写真で子ども達が楽しそうにしていたことが伝わり、安心した。
- ・アプリで、毎日の様子を写真で見ることができ、嬉しかった。
- ・写真もたくさん撮っていただき、思い出をたくさん残せたのも嬉しかった。

###### <父母会>

- ・行事ごと、進級・卒園の時と、父母会からのプレゼントも良かった。

##### (6) その他

###### <感染症対策>

- ・感染症対策がしっかりされていた。

###### <園内環境>

- ・国内もきれいで新しく、明るい雰囲気だった。
- ・清掃が行き届いた園で過ごせた。

###### <他、感想>

- ・青森ひかりに入園できてよかった。とても嬉しかった。(3人)
- ・もう一つの家であり学びの場であった。
- ・人との関わりで成長する上で、大切な基となる部分を育ててもらい、毎日を楽しく過ごせた。
- ・小さい頃から子を預けてしまうことは可哀そうなのか、と悩む時もあったが、入園していなければできなかった体験が沢山あり、親子共々成長することができた。